

中間評価(表紙)

高岡市歴史的風致維持向上計画(令和3年3月5日認定)
中間評価(令和3年度～令和7年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成.....	3
II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用.....	4
III 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和.....	5
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 観光者数の増加.....	6
ii 地域コミュニティの活性化.....	7
iii 住民意識の向上.....	8
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A日本遺産魅力発信推進事業.....	9
B重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業.....	10
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致.....	11
2鑄物のまち金屋に見る歴史的風致.....	12
3北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致.....	13
4勝興寺と寺内町に見る歴史的風致に見る歴史的風致.....	14
5旧北陸道における越中福岡の菅笠づくり及び祭礼行事等に見る歴史的風致.....	15
6越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致.....	16
7二上山丘陵に見る歴史的風致に見る歴史的風致.....	17
■ 庁内体制シート(様式6).....	18
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	19
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	20

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VIII	
2	鋳物のまち金屋に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VIII	
3	北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VIII	
4	勝興寺と寺内町に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VIII	
5	旧北陸道における越中福岡の菅笠づくり及び祭礼行事等に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VIII	
6	越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VII、VIII	
7	二上山丘陵に見る歴史的風致	I、II、IV、VI、VII、VIII	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史と伝統を反映した工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事等の継承と育成		
II	歴史的建造物等の積極的な保存と活用		
III	歴史的な街並みの保全と周辺環境の調和		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史的建造物の保全や活用に関する市民認知度の向上		
ii	歩行者等通行量の増加		
iii	地域コミュニティの活性化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	前田利長墓所整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	重要伝統建造物群保存地区保存修理に関する事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 歴史と伝統を反映した工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事等の継承と育成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

「高岡銅器」、「高岡漆器」、平成29年(2017年)に「越中福岡の菅笠」が国の伝統的工芸品の指定を受け、第1期計画では、歴史と伝統を反映した工芸技術の後継者不足等に対する助成支援を行い、新たな継承者が若干名育成された。しかしながら、依然として後継者不足は課題である。

方針

「高岡地域文化財等修理協会」への活動支援や若年層を対象とした地元産業に係わる体験学習プログラムである「ものづくり・デザイン科」、菅笠づくりの保存継承の取組を継続する。また、祭礼道具などの修理に対する支援とともに、資料の収集・保存及び調査研究を通して体系的な記録保存を図り、その普及啓発に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	高岡御車山保存修理事業	修理件数12件(籠、標旗、鋒留など)	あり	H17～
2	菅笠保全対策事業	菅笠製作技術後継者育成462名(累計)	あり	H25～
3	伝統工芸産業人材養成スクール事業	養成スクール受講生113名(累計)	あり	R2～
4	ものづくりデザイン科推進事業	楽しんで学習している児童生徒が96%となっている	あり	H18～
5	コミュニティ助成事業	祭道具の修理・購入等への支援(累計)12団体	なし	R3～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■高岡御車山保存修理事業

重要有形・無形民俗文化財指定行事の保存や魅力発信に努めている。

■菅笠保全対策事業

菅笠技術習得や、新しい菅笠のブランド化事業を行なった。その結果、菅笠の後継者育成周知については年間50人以上が参加しており一定程度の人数が確保できる見込みである。

■伝統工芸産業人材養成スクール事業

高岡の伝統工芸産業である銅器・漆器について技術保持者、伝統工芸士などを講師に迎え人材育成を目的に行っている。その結果、伝統工芸課、クラフトマン、産業界の中堅技術者を多数輩出している。



菅笠製作後継者育成講座の様子



人材養成スクールの様子

④ 自己評価

菅笠の技術習得者や伝統工芸産業の技術継承について一定程度の人数を確保するなど、一定程度歴史と伝統を反映した工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事等の継承と育成に寄与できたと考える。

⑤ 今後の対応

今後も、菅笠製作技術後継者育成、菅笠展示・実演、菅笠保全活動団体との連携事業を通じ、菅笠後継者育成・周知を継続していく。

資材高騰、高齢化による菅田の減少(対応策)については、今後検討していく必要がある。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

第1期計画により指定文化財等について、各事業により保存及び活用が一定程度図られたが、未だ保護が図られていない歴史的建造物も残されており、引き続き保護を図ることが課題である。

方針

指定文化財については引き続きその保存と活用を行い、登録有形文化財については歴史的風致形成建造物の指定等による保存・活用を図るとともに、その公開にも努めていく。

未指定のものについては、継続的な基礎調査を行い、必要があれば資料調査と研究を行った受けて、必要な法令に基づく保護措置を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	前田利長墓所整備事業	能登半島地震の被害の復旧など	あり	H25～
2	「赤レンガ建物」利活用事業	利活用事業に関する公募型プロポーザルを実施	あり	R2～
3	勝興寺公開活用事業	多言語解説を整備	あり	R3～
4	市内町屋等再生事業	修理件数 1件	あり	H25～
5	高岡城跡保存整備事業	能登半島地震で被害を受けた本丸土橋の3Dレーザー測量を実施	あり	R3～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■「赤レンガ建物」利活用事業

「赤レンガ建物」の利活用にあたり、公募型プロポーザルを実施し、民間活力を活かして、文化財的価値の保存と交流拡大に資する機能の両立を図る利活用事業を選定し、事業者とは契約締結に至った。

■勝興寺公開活用事業

国宝指定された勝興寺の記念シンポジウムや「縁 歴史を支えた人々」の企画展で、勝興寺「本堂」「大広間及び式台」が国宝に指定された要素の一つである歴史的背景やその文化的価値にスポットをあてた“縁YUKARI”をテーマとして、長い歴史の中で勝興寺が築いた関係性に注目し、それぞれに関連する資料を寺院空間のなかで展示した。併せてパンフレットの刷新を図った。また、ネイティブ目線による多言語解説文の作成を行い、インバウンド対応及び魅力向上に向け整備を進めた。

■高岡城跡保存整備事業

樹木管理行動計画に基づく樹木整理を行い、高岡城跡リーフレットを活用してイベントを実施し、史跡としての保存と魅力発信をはかることができた。



勝興寺 多言語解説 現地調査



高岡城跡 樹木整理後

④ 自己評価

赤レンガ建物は耐震補強・外観修理を実施し、地元の方々にも活用いただけるレストランや、誘客に寄与するホテルとなる予定であり、文化財的価値の保存と交流拡大に資する機能の両立に向けた取組を進めることが出来ている。勝興寺が国宝に指定され、情報コンテンツの整備が行われるなど、歴史的建造物の維持向上に寄与している。

⑤ 今後の対応

引き続き、高岡城跡保存整備事業については、樹木管理行動計画に基づく樹木整理を行い史跡としての保存を図り、高岡城跡についてはリーフレットやパンフレットを活用したイベント等を実施する。また、勝興寺については多言語解説文を活用し媒体化の整備(リーフレット、説明看板)を行い、それぞれ魅力発信やインバウンド対応を図る。赤レンガ建物については、耐震補強・外観修理に対して国、富山県の補助も活用しながら事業者が実施する工事に対して支援していく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

第1期計画にて中心市街地の無電柱化による道路修景整備や景観計画に基づく景観形成重点地区での建物修景補助や色彩基準等の追加等を行ったが、1期計画期間中に完了に至らなかった道路修景整備が未だにある。

方針

歴史的な街並みにおいては、高岡の魅力を向上させる観光資源として活用を促進するなど街並み全体としての保全を図る。景観計画に基づく規制誘導など良好な景観の形成を推移する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要伝統的建造物群保存修理事業	建築物等の修理19件、修景2件	あり	H13～
2	県道岡・笹川線道路整備事業	道路のカラー化、電柱のカラー化を実施	あり	H26～
3	勝興寺寺内町道路主計整備事業	側溝整備を実施	あり	H29～
4	吉久地区道路修景事業	電柱のカラー化、側溝整備を実施	あり	R5～
5	ミラレ金屋町開催事業	ミラレ金屋町を開催	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■重要伝統的建造物群保存修理事業

重要伝統的建造物群保存地区の修景・修理を行ったことにより、良好な景観を形成した。

【修理・修景実績(R3～R7)】※R7見込含む

山町筋 修理4件、修景1件 金屋町 修理8件、修景1件

吉久 修理4件、修景2件

【能登半島地震に伴う災害復旧実績(R6～R7)】※R7見込含む

山町筋 復旧3件 金屋町 復旧1件 吉久 復旧3件

■県道岡・笹川線道路整備事業

電柱のカラー化、カラー舗装整備の実施により、景観が向上するとともに住民の景観に対する意識が向上し、自宅の外観を修景するなどの動きに繋がり、歴史的風致の維持向上に寄与した。

■ミラレ金屋町開催事業

伝統的な町屋や文化に触れる機会を提供することで、「高岡の町民文化」の魅力を発信した。「ものづくりのまち高岡」の歴史的風致に深くかかわる工芸の魅力に広く親しむ機会を提供することができた。



カラー舗装後



ミラレ金屋町開催時の様子

④ 自己評価

重要伝統的建造物群保存地区の修理・修景が行われ、ミラレ金屋町などにより、高岡の魅力を向上させる観光資源として活用するなど歴史的風致の維持向上に寄与した。

⑤ 今後の対応

引き続き、重要伝統的建造物群保存地区の修理、修景の補助を続け、より歴史的風致に寄与するために道路整備事業を続けていく。

また、伝統的な町屋や文化に触れる機会の提供を続けていく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3~R7年
効果	i 観光者数の増加		

① 効果の概要

中心商店街・観光地周辺における観光者数の増加

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高岡市賑わい集積開業等支援事業	なし	
2	高岡市観光振興ビジョン	あり	R3~
3			

③ 効果発現の経緯と成果

■ 回遊性向上に資する取り組み

令和7年4月より歴史的風致地区に認定されている箇所や高岡駅前などに民間企業が運営する電動シェアサイクル「HELLO CYCLING」のポートが設置された。



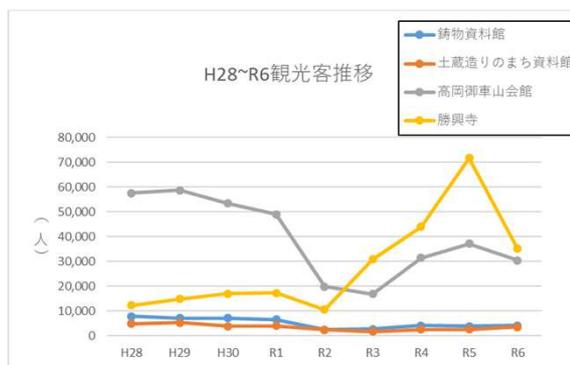
シェアサイクルのポート設置状況

■ 観光客入込数

これまでに、実施してきた歴史的風致にかかる各事業、支援を行ってきた結果、どの施設も一定程度の入込数を維持している。

勝興寺については、令和4年12月に国宝指定を受けたことが要因となり、令和5年度の入込数は約7万人と大幅に増加した。

令和6年度は能登半島地震の影響により減少したものの、国宝指定の話題性や多言語解説整備の推進により、インバウンドも含め、今後さらなる入込数の増加が期待出来る。



④ 自己評価

歴史的風致重点地区に認定されている箇所に電動シェアサイクルが設置され、小回りの利く移動手段が新たに増えたことにより、街中の回遊性が向上した。

また、勝興寺が国宝指定されたりその前段によって、勝興寺の観光客数が1期のときよりもかなり増えた。今後も、多言語解説整備により認知度や観光客の増加向上が期待される。

⑤ 今後の対応

今後も、歴史的風致の維持向上を務め、魅力を発信していくことで、歴史的建造物の保全や、市民認知度の向上に繋げていきたい。また、併せて観光客入込数増加に努めていきたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年																
効果	ii 地域コミュニティの活性化																		
<p>① 効果の概要</p> <p>菅笠の伝承活動</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1				2				3			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1																			
2																			
3																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>■ 小学校・中学校での伝統工芸に触れる事業</p> <p>○ 地元の小学5年生を対象に菅笠の講義を行ったり、菅を使ったコースターづくりなどの授業が行われ、また、中学校でも豆傘縫い体験などがあり地元の伝統工芸に触れる授業が行われている。</p> <p>○ 地元小学校の児童がモチーフを提案し、富山大芸術文化学部の学生がデザインした特産の菅笠(すげがさ)がモチーフの「かさのこバス」などが地元を走っている。</p> <p>○ 菅笠制作技術保存会で、菅笠の材料となるスゲ生産の担い手の減少を受け、令和6年度から菅栽培体験(苗取り・苗植えなど)など生産者に協力する取り組みを始めた。</p>																			
																			
		<p>かさのこバス</p>																	
																			
		<p>菅の苗植えの様子</p>																	
<p>④ 自己評価</p> <p>地元小中学校で伝統工芸に触れる機会を提供できた。 伝統的工芸に触れ地域固有の歴史・文化であることを認識し、 未来の伝承者や理解者へ育てる環境を提供できていると考える。 菅笠生産の担い手となる人員の確保が必要である。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も、地域住民や学校などへの取り組みを継続し、伝統的工芸に触れ地域固有の歴史・文化であることを認識し、未来の伝承者や理解者へ育っていくような環境を醸成する。</p>																			

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
効果	iii 住民意識の向上		

① 効果の概要

住民による歴史的資産を活用した取組の展開

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	金屋町元気プロジェクト	あり	H25～
2	よっさまちづくり会議	あり	R3～

③ 効果発現の経緯と成果

■NPO法人 金屋町元気プロジェクト

大都市から移住等を考える人たち」を金屋町に誘導し、その定住を促進することにより、町内の地域コミュニティの担い手の確保や消費需要の拡大等により地域振興を図ることを目的に平成25年(2013)11月にプロジェクトを地元が設立し、金屋の空き家を活用した店舗や宿泊施設などが増えている。



金屋町元気プロジェクトサイト

■よっさまちづくり会議

富山大学と協力し企画しヨッサを開催し、吉久朝市を開催したり、重伝建地区となっている旧街道「放生津往来」沿いの民家や店舗約30カ所をギャラリーとして活用し、玄関先や建物内に作品を飾るイベントなどを行っている。



企画しヨッサパンフレット

④ 自己評価

地域による歴史的資産を活用した取り組みが増えており、近年では空き家を活用した店舗の増加や、大学と共同で、店舗やギャラリー展示などが行われるようになってきた。

⑤ 今後の対応

今後も、大学などの協力を得ながら、歴史的風致を生かした地域住民による歴史的資産を活用した取り組みを支援していく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	A 日本遺産魅力発信推進事業	種別	歴史的風致維持向上事業
<p>① 取り組み概要</p> <p>本市が認定を受けた2つの日本遺産のストーリー(「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心ー」及び「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」)を活用し国内外に向け、本市の文化財群の魅力発信・普及啓発を実施している。</p> <p>日本遺産の認定を受けた本市の2つのストーリーを活用することで近世以降の本市の歴史的な魅力や特色をわかりやすく発信することができるほか、構成文化財が市内各地に点在していることから加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致、鋳物の金屋に見る歴史的風致、北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致、勝興寺寺内町に見る歴史的風致、旧北陸道における越中福岡の菅笠づくり及び祭礼行事等に見る歴史的風致の維持及び向上を目指すもの。</p> <p>実施団体:高岡市日本遺産推進協議会 :北前船日本遺産推進協議会</p> <p>※協議会を主軸として各種団体・部局が連携して事業を実施している。</p>		 <p>ツーリズムEXPOにおけるPR</p>  <p>2つの日本遺産の魅力を伝えるタブロイド紙の発行</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>「タブロイド紙発行事業」「日本遺産給食事業」「日本遺産紹介アニメーション制作事業」など魅力発信・普及啓発事業を中心に実施。本市の日本遺産の認知度向上を目指しており、市民アンケート調査では概ね60%程度の認知度であると結果が出ている。事業を継続することで認知度をさらに伸ばす余地があるとみられる。また、文化庁の日本遺産の認定継続審査においては、令和3年7月は「認定継続(重点支援地域認定)」3年後の令和6年7月においては「認定継続」の審査結果を受けており、これまでの取り組みに関しては一定の評価を受けていると認識している。また、能登半島地震によって15の構成文化財に被害が発生しており、災害復旧を進めている最中である。</p>			
外部有識者名			
外部評価実施日			
<p>③ 有識者コメント</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、魅力発信・普及啓発事業を継続するとともに、構成文化財やストーリーを活用した観光客誘致や関連商品を売り出し、地域経済の活性化に資する取り組みについても充実させる必要がある。また、構成文化財施設の維持や魅力向上についても日本遺産関連国庫補助等を活用しながら進める必要がある。</p>			

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	B重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>山町筋伝統的建造物群保存地区(平成12年12月国選定)及び金屋町伝統的建造物群保存地区(平成24年12月国選定)、吉久伝統的建造物群保存地区(令和2年12月国選定)において、伝統的建造物の修理、非伝統的建造物の修景事業を実施している。</p> <p>当該事業によって、本市を代表する歴史的な町並みが保全されるとともに、山町筋、金屋町、吉久の歴史的景観の向上や賑わい創出にもつながることから、加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致や、鑄物のまち金屋に見る歴史的風致、北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事等に見る歴史的風致の維持及び向上を目指すもの。</p> <p>【修理・修景実績(R3～R7)】※R7見込含む 山町筋 修理4件、修景1件 金屋町 修理8件、修景1件 吉久 修理4件、修景2件</p> <p>【能登半島地震に伴う災害復旧実績(R6～R7)】※R7見込含む 山町筋 復旧3件 金屋町 復旧1件 吉久 復旧3件</p>		 <p>重伝建地区選定初期(山町筋)</p>  <p>令和7年現在(山町筋)</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>修理・修景事業は点の事業であるが、点の事業を積み重ねることによって面(伝建地区全体)の歴史的風致や景観が向上している。</p> <p>その結果、地区の魅力や観光資源としての価値が向上し、令和6年には山町筋の旧高岡共立銀行を活用したホテル・飲食施設整備の提案を受けており約40億円規模の民間投資が計画されている。</p> <p>また、全国伝統的建造物群保存地区協議会が主催し、スマートフォンアプリを活用したデジタルスタンプラリーにおいては全国129の重伝建地区のうち山町筋が23位(221件)、金屋町が25位(217件)、吉久が36位(176件)(令和7年6月時点)と来訪者数が上位に位置しており、これは事業の継続によって地区の魅力が向上した結果も一因であるとみている。</p>			
外部有識者名			
外部評価実施日			
<p>③ 有識者コメント</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、重伝建地区における修理・修景事業等を継続していくとともに、建築費の高騰、事業に携わる設計技術者、施工業者等の人員が不足する等の様々な課題があるため、他市町村の重伝建地区とも課題を共有しつつ対処していきたい。</p> <p>また、重伝建地区に選定されて、まだ間もない吉久地区については、教育機関と連携したワークショップ等に協力するなど地区の将来の方向性を固めていきたい。</p>			

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

加賀前田家二代当主前田利長は、慶長14年(1609)に高岡城を築城し、高岡を開町した。城下町として町割りを行い、武家屋敷や商人町を整備した。しかし、慶長19年(1614)、利長が築城5年にして没し、さらに翌年の一国一城令によって高岡城は廃城となり、城下町としての存在意義を失ってしまった。高岡の町が急速に衰退することを憂いた三代当主前田利常は、高岡を城下町から商工業の町へ転換する政策を敢行した。また、町人も呼応するように生業に励み、藩と共に町を発展させた。現在においても、歴史的建造物や上質な伝統工芸品の製造、高岡御車山祭などの祭礼行事等に歴史的風致として受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

■高岡御車山保存修理事業

重要有形・無形民俗文化財である高岡御車山祭は、毎年5月1日に御車山の奉曳(ぶえい)を伴い斎行される。このため、部材の破損や経年劣化が発生しており、有識者で構成する修理委員会によって文化財的価値を損なわない形の修理方針を決定した上で修理を実施しており、祭礼行事の継続実施に貢献している。



御車山修理部材の確認

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

高岡の商人町である山町筋や鋳物師町である金屋町、加賀藩の御米蔵があった吉久については、重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、建造物の修理・修景事業を実施している。事業を継続することで町並みの景観が維持・改善され、歴史的風致や観光地としての価値向上に寄与している。



R6.4



■日本遺産魅力発信事業

本市の日本遺産認定ストーリー「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 ～人、技、心～」は、高岡開町から商工業の町への転換・発展を語った物語であり、本歴史的風致を内外に発信するためのツールとなっている。文化庁の日本遺産の認定継続審査においては、令和3年7月は「認定継続(重点支援地域認定)」3年後の令和6年7月においては「認定継続」の審査結果を受けており、これまでの取り組みは一定の評価を受けていると認識している。



建造物保存修理の様子 R7.2

③ 自己評価

本歴史的風致に関連する文化財の保存修理や情報発信などの取り組みの実施により、祭礼行事の継続実施や歴史的風致理解促進に伴うシビックプライドの醸成や歴史的建造物に対する民間活用・投資に伴う地域経済の活性化がみられたため、本歴史的風致の維持向上に大きく寄与したと判断している。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持向上を図るとともに、御車山の修理委員会の体制の見直しを図る等、改善しながら取り組みを継続していきたい。また、令和6年能登半島地震における歴史的建造物の損傷についても通常の保存修理事業と並行しながら災害復旧事業として進めていく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 鋳物のまち金屋に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

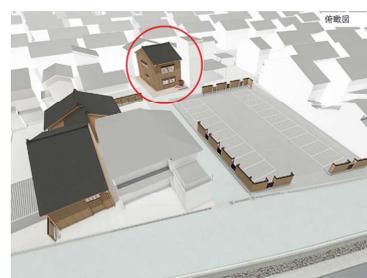
① 歴史的風致の概要

金屋町は前田利長が高岡を開町した際に鋳物師を呼び寄せて定住させたことで成立し、千本格子と呼ばれる意匠を持つ住宅兼鋳物工房の町家が連なる構造が特徴。町家は防火を意識した配置や構造を持ち、現在も鋳物工房で製作体験が出来る。また、御印祭では、たたら製鉄作業の際に歌い継がれてきた「弥栄節」が歌われ、鋳物文化と地域の絆を今に伝えている。こうした風景や音、匂いが一体となった本歴史的風致は、高岡鋳物の発祥・発展や伝統的建造物、風習・祭礼を通じて形成された独特の歴史景観と文化的価値を示すものとなっている。

② 維持向上の経緯と成果

■金屋鋳物師町交流館整備事業

伝統的建造物群保存地区の景観向上と鋳物技術の継承、地域活性化を目的として、令和2年に研修棟を供用開始。令和6年度に交流展示棟と駐車場の整備に向けた実施設計を完了。施設は鋳物関係者などの交流の場として活用されており、研修棟の利用実績もR6から増加に転じている。
(研修棟利用実績 R3:9件 R4:7件 R5:2件 R6:15件)



鋳物師交流館 交流展示棟
R7整備予定

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

鋳物師町である金屋町については、重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、建造物の修理・修景事業を実施している。R5には、伝統的な町並みにふさわしくないシャッターを使用していた鋳物資料館の表構えを修景する事業を実施した。このような事業を継続することで、町並みの景観が維持・改善され、歴史的風致や観光地としての価値向上に寄与している。



R5.4



鋳物資料館表構え修景の様子

R5.12

③ 自己評価

本歴史的風致に関連する文化財の保存修理や歴史的風致を発信する施設の整備、町並みを活用したイベントなどの取り組みにより、歴史的風致の理解促進に伴うシビックプライドの醸成や歴史的建造物に対する民間活用・投資に伴う地域経済の活性化がみられるため、本歴史的風致の維持向上に大きく寄与したと判断している。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持向上を図る事業や取り組みを継続していきたい。金屋鋳物師町交流館については、令和10年度までに駐車場や構築物も含めた一連の整備を終え、施設整備の効果が最大限に発揮できるようにしたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	3北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

小矢部川の河口に位置する伏木地区は北前船の寄港地として、吉久地区は加賀藩の年貢米の集積地として繁栄した。伏木では北前船や近代港湾に関連した特有の町並みが残り、伏木神社の春季例大祭(伏木曳山祭)では華やかな花山車や提灯山車を奉曳(ほうびぎ)する。また余興として提灯山車同士をぶつけ合う「かつちゃ」が行われ、港町の勇壮な風景が広がる。

一方、吉久では、伝統的建造物群保存地区に選定されており、伝統的な町家が立ち並ぶ中、獅子舞が町内を巡行し、豪快な舞や「ハイッタ・ハイッタ」と呼ばれる座敷舞が奉納される。これらの祭礼行事と町並みが一体となり、本歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■市内町家等再生事業

伏木・吉久地区には登録有形文化財や歴史的風致形成建造物及び候補の建造物が点在している。これらについて修理・修景事業の補助を実施しているが、令和6年能登半島地震によって大きな被害を受けた建造物の修理金額が高額となり、補助があっても所有者負担が大きく、一部については公費解体申請が提出されており存続に課題がある。



伏木神社の春季例大祭
開催状況

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

かつて加賀藩の御米蔵があった吉久については、重要伝統的建造物群保存地区に令和2年12月に選定されており、建造物の修理・修景事業を実施している。また、別事業の吉久地区道路修景整備事業によって道路等の修景も実施中である。吉久は選定から間もないため、事業が完了した件数は少ないが、継続することで、町並みの景観が維持・改善され、歴史的風致の維持・向上に寄与した。



R5.4



■祭行事・イベント振興事業

伏木神社の春季例大祭の開催及び祭礼用具の修理について補助を実施した。評価対象期間中は新型コロナウィルスや令和6年能登半島地震による被災などの影響を受けたが、開催内容を変更するなどの対応しながら開催し、本歴史的風致の維持・向上に寄与した。



大谷家住宅修理の様子

R6.3

③ 自己評価

吉久重要伝統的建造物群保存地区に対する修理・修景事業や伏木神社春季例大祭開催に対する支援等によって本歴史的風致の維持向上がみられる。

一方で、伏木地区の歴史的風致形成建造物等について、公費解体申請がされており、所有者に対して本市としての支援策を案内している状況である。滅失となった場合、現状の“維持”としている評価を見直す必要がある。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持 向上を図る事業や取組みを継続していきたい。併せて公費解体申請が提出されている歴史的風致形成建造物等の所有者に対して、引き続き必要な対応をしていきたい。吉久については、伝建地区選定から間もないため、ハード面の整備だけではなく地区住民を対象としたワークショップ等において助言を行うなどの対応を継続していきたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	4勝興寺と寺内町に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

浄土真宗本願寺派の古刹である勝興寺は、門前の寺院、参道に建ち並ぶ町家で構成された寺内町を形成している。寺内町は北前船の寄港地である伏木湊からほど近い為、舟運に関わる仕事をしてきた住民が多く、今でも参道には伏木北前船資料館(旧秋元家住宅)、棚田家住宅などの北前船交易で財を成した旧家の歴史的建造物が現存している。また、勝興寺には寺内町の住民の財が還元され、壮大な伽藍を維持する原動力となったほか、毎年1月の御満座法要や春の花まつりなどでは、寺内町住民が行事運営に積極的に関わり、信仰の拠り所となっている。本歴史的風致は、勝興寺の伽藍と寺内町の町並み、勝興寺の行事が一体となって形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■勝興寺公開活用事業

令和4年12月の勝興寺本堂、大広間及び式台の国宝指定を原動力とし、記念事業や境内地、駐車場等の整備を実施した。その結果、国宝指定後に拝観者数は大幅に増加(R3:約3万人⇒R5:約7万人)したことや、寺内町周辺で店舗の開店や改装がみられるなど、大きな成果となったが、令和6年能登半島地震の被災を受け急減した。(R6:約3.5万人)令和6年度は、観光庁事業によりネイティブ目線の多言語解説文を作成し、魅力向上及び拝観者数の増加に向け整備を進めた。



勝興寺国宝指定記念企画展

■勝興寺寺内町道路修景整備事業

勝興寺寺内町の参道について、意匠マンホールの設置、電柱のカラー化、側溝整備等の修景事業をしており、期間中は側溝の整備に取り組んでいる。参道を修景することで住民の景観や歴史的風致に対する意識向上や勝興寺拝観者の寺内町へのまち歩きを促す環境を整備することで、本歴史的風致の理解促進を図り、本歴史的風致の維持・向上に寄与している。



H30.6



■日本遺産魅力発信推進事業

本市は北前船に関する日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を受けており、寺内町には伏木北前船資料館(旧秋元家住宅)や勝興寺唐門は北前船で運ばれ移築された経緯があり、構成文化財となっている。北前船の日本遺産を発信することで本歴史的風致の維持・向上に寄与した。



勝興寺寺内町道路修景整備事業の様子 R7.7

③ 自己評価

勝興寺の国宝指定を原動力とした各種整備(駐車場・参道修景等)や記念事業を実施しており、本歴史的風致は維持・向上していると認識している。しかし、令和6年能登半島地震による観光客の落ち込みのほか、寺内町にある棚田家住宅について公費解体の申請が提出され、所有者に対して本市としての支援策について案内している状況である。滅失となった場合、現状の“向上”としている評価を見直す必要がある。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持向上を図る事業や取組みを継続していきたい。併せて公費解体申請が提出されている歴史的風致形成建造物等の所有者に対して、引き続き必要な対応をしていきたい。また、勝興寺の多言語解説を整備(来館者リーフレット、説明看板の整備)をすることで、勝興寺のさらなる魅力向上を図り、被災による観光客数の落ち込みの回復及びインバウンド対応を行う。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	5旧北陸道における越中福岡の菅笠づくり及び祭礼行事等に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

高岡と福岡を結ぶ旧北陸道沿いについて、立野では加賀藩の高札場や御蔵を有する宿場町として、福岡では街道沿いに菅笠問屋が建ち並ぶなどして繁栄し、歴史的建造物群が現存している。福岡の菅笠は現在に至るまで、菅の生産から、菅笠の製作、販売までを一貫して実施しており、越中福岡の菅笠製作技術として国の重要無形民俗文化財に指定されている。また、街道沿いに多くの地蔵が祀られ、地蔵祭りが行われるほか福田神社の秋季例大祭における獅子舞など祭礼行事が活発に行われている。このように本歴史的風致は、街道沿いの歴史的建造物群と菅笠に関わる光景、街道周辺の祭礼行事により形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■菅笠保全対策事業

重要無形民俗文化財存続のため、菅笠の製作技術者の育成や菅田保全のための調査を実施している。製作技術者の確保については、育成事業の参加者を十分に確保することにより、修了者が講師として活動することに繋げるなど、好循環を生み出しているが、菅田の栽培面積・菅生産量については減少傾向に歯止めがかかっていない状況である。菅の生産がなくなると本歴史的風致が維持できなくなってしまうため、農業団体等との連携や効率的な栽培技術の確立が急務となっている。



菅笠製作技術後継者育成事業

■県道岡・笹川線道路整備事業

前身が旧北陸道である県道岡・笹川線において、カラー舗装、電柱、照明の修景、消雪設備・側溝の改修を実施している。道路修景の実施により地域の町並み・景観についての住民意識が高まり、町並み保存・都市景観形成補助事業を活用した自宅の外観を修景が徐々に実施されてきており、本歴史的風致の維持・向上に寄与している。



H30



■町並み保存・都市景観形成補助事業

旧北陸道沿いの景観形成重点地区において景観重要建造物の修理や建造物外観に対する修景事業の補助を毎年1～2件程度実施している。道路修景と併せて本歴史的風致の維持・向上に寄与している。



旧北陸街道の道路修景事業 R6

③ 自己評価

菅笠製作技術者の後継者育成や旧北陸道沿いの道路や建造物の修景事業等に関しては順調に進んでおり、本歴史的風致の維持・向上に寄与していると認識しているが、このまま菅田や菅生産量の減少に歯止めがかからなかった場合、現状の“維持”としている評価を最終評価で見直す必要がある。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持向上を図る事業や取組みを継続していきたい。特に菅田面積・菅生産量は本歴史的風致の維持に関わる重要なものとなるため、取組みについて強化していきたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	6越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (7)埋蔵文化財の取扱いに関する具体的な計画 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

高岡市北部伏木地区に位置する越中国府跡と氣多神社周辺は、古代に越中の政治・文化の中心として栄えた地であり、万葉歌人・越中国司の大神家持が多くの歌を詠んだ景勝地でもある。越中国府関連遺跡は伏木地区一帯に広がり、発掘調査により遺構や遺物が発見されている。また、氣多神社の創建は古く、延喜式内社であり、永祿年間に(1558～1569)再建されたと伝わる重要文化財指定の本殿を有する。春季例大祭では、市指定無形民俗文化財「にらみ獅子」が奉納され、この獅子舞は天狗を伴わず、厄除けの力を持つとされ、荘厳な雰囲気の中で行われる。例大祭では神輿が氏子の家々を巡り、地域の一体感とともに良好な歴史的風致を今に伝えている。

② 維持向上の経緯と成果

■越中国府関連遺跡調査事業

越中国府関連遺跡の埋蔵文化財包蔵地において、宅地開発等に伴う発掘調査を必要に応じて実施しており、古代瓦や硯、陶器等の遺物や建物等の遺構が発見されている。発掘調査結果は万葉歴史館等での企画展示等に活用しているほか、こしのくに国府サミット等において越中国府の魅力を発信している。また、令和4年度には国分寺薬師堂の仏像調査結果等をとりまとめた一般向けリーフレットを富山大学と協力して発行した。このような取組みをととして本歴史的風致の維持・向上に寄与した。



万葉歴史館における企画展示

■地域における本歴史的風致の維持・向上に関する取組み

氣多神社奉賛会において、令和4年11月に氣多神社敷地内に展望台及び遊歩道を設置し、多くの人々が訪れやすい環境を作り、本歴史的風致に触れる機会を増加させた。また、市指定無形民俗文化財「にらみ獅子」について、令和4年に文化庁の国庫補助事業(地域文化財総合活用推進事業)を活用して、用具の修理・復元新調を実施した。実施に際しては、有識者や文化庁の指導の下で業務仕様を決定するなど文化財的価値を損なわない形で実施した。このほか、従来は毎年4月18日開催としていたが、平日となる年は祭礼参加者の確保が難しくなるため、4月18日を含む以降の土曜日とする現状変更申請を行い、市教育委員会の承認を受けたため、令和7年度より新たな運用となった。このように、地域においても本歴史的風致の維持・向上に関わる取組みを実施している。



氣多神社 にらみ獅子
唐櫃復元新調

※本来は漆塗りのものであったため、漆塗りに復元新調した。

③ 自己評価

本歴史的風致を維持・向上するために継続して越中国府関連遺跡の調査報告を行っており、企画展示やリーフレット作成によって魅力を発信している。また、地域についても連携して積極的な取組みを実施していることから、本歴史的風致は維持・向上していると認識している。

④ 今後の対応

今後も本歴史的風致の維持向上を図る事業や取組みを継続していきたい。また今後とも地域と連携しつつ実施していきたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	7二上山丘陵に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針 (2)文化財の修理(整備)に関する方針 (4)文化財の周辺環境の保全に関する方針 (6)文化財の普及・啓発に関する方針 (7)埋蔵文化財の取扱いに関する具体的な計画 (8)文化財の保護の体制と今後の方針		

① 歴史的風致の概要

二上山丘陵は、大伴家持が越中在任中に多くの歌を詠んだことでも知られ、万葉集の舞台となっている高岡の自然や風景が今も残る景勝地である。中世以降には「守山城」が山城として築かれ、加賀前田家二代当主前田利長も居城した。周辺には、禅寺「国泰寺」や豪農の「武田家住宅」など歴史的建造物が残り、国泰寺の「開山忌」や竹林で採れるたけのこ料理などの信仰行事や文化が継承されている。また、二上射水神社では春季例大祭として「築山行事」が行われ、神を迎える祭壇が生まれ、古式の祭礼形態を色濃く残しており、県の無形民俗文化財に指定されている。こうした信仰や山麓の農村文化が自然や風景と結びつき、独自の歴史的風致を育んでいる。

② 維持向上の経緯と成果

■祭行事・イベント振興事業

二上射水神社での築山行事など本歴史的風致を形成する祭礼行事に対して毎年補助金等による支援を実施している。支援によって祭礼行事の継続に寄与し、本歴史的風致の維持・向上に寄与しているとみている。



守山城跡範囲確認調査

■前田家関連史跡調査事業

守山城跡の現地調査、史料調査によって守山城の史跡範囲等の確認を実施している。一連の調査結果については、令和7年度末発行予定の『守山城広報普及小冊子』によって取りまとめ、広く市民に対して越中の山城や二上丘陵の魅力を発信することで、本歴史的風致の維持・向上につながっている。

■地域における本歴史的風致の維持・向上に関する取組み

二上射水神社文化財保存会において、令和4年から5年にかけて文化庁の国庫補助事業(地域文化財総合活用推進事業)を活用して、築山行事に関わる用具の修理・復元新調を実施した。実施に際しては、有識者や文化庁の指導の下で業務仕様を決定するなど文化財的価値を損なわない形で実施した。このような地域の取り組みによって祭礼行事の継続に寄与し、本歴史的風致の維持・向上に寄与しているとみている。



二上射水神社 築山行事
四天王面復元新調

③ 自己評価

本歴史的風致を維持・向上するために祭礼行事に対する支援や前田家関連史跡調査など必要な取組みを実施している。また、地域についても連携して積極的な取組みを実施していることから、本歴史的風致は維持・向上していると認識している。

④ 今後の対応

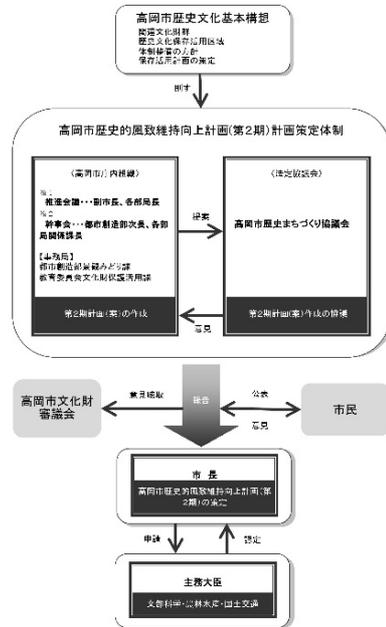
今後も本歴史的風致の維持向上を図る事業や取組みを継続していきたい。また今後とも地域と連携しつつ実施していきたい。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

歴史まちづくりを推進するため、町内に関係部局で構成する「歴史まちづくり推進会議」を組織し、部局横断的な連携の強化を図っている。

また、関係課で構成する「歴史まちづくり推進会議幹事会」を定期的に開催することで、庁内調整を行っている。



歴史まちづくり協議会の様子

② 庁内の意見・評価

・どのように進捗管理の評価を行っているのか。どういう状況になれば、計画が進んでいると評価できるのか。

本来ならば、計画というのは、計画が終了する〇年後(本計画では10年後)までにどういう姿を目指すのか、また、観光客を〇〇人に増やすなどの目標を持つべきであるが、本計画については、そのような目指す姿や数値目標の設定が無く、個々の事業が進んでいることをもって、相対的に計画が進んでいるだろうと、外部の委員の方に意見・評価をいただいている。

国では、指標の設定をすべきという議論もある。一方で、国においても事業の実施そのものは評価や指標の設定ができるが、事業を実施したことによる波及効果の評価や指標の設定は難しいと認識されている。

しかしながら、市としてもどこかのタイミングではそれを踏まえて、どういう効果があったか等を目に見える形にしていく必要があり、目指す姿や数値目標を設定し、指標などを使って評価を行うことを考えていくことは必要な時期にあると思う。

これまでは整備と保存に重きを置いてきたが、今後はそれを踏まえて、どういう効果があったか等を目に見える形にしていく必要がある。

個々の事業が計画の中でどのような構成要素となっているのか、はっきりさせると良いだろう。

・段階を設けて項目を設定するなどして、個々の事業としての評価ではなく、計画の中の事業としての観点から評価していくと良いだろう。

市町村名	高岡市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 全体の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史的風致向上のため、引き続き事業に取り組む必要がある。 2 令和6年能登半島地震の影響により、歴史的風致を形成する歴史的建造物の毀損等があったため、文化財的価値を損なわないように留意しつつ計画的に復旧を進める必要がある。 3 少子高齢化や世代交代で依然として後継者不足が問題となっている。今後の対策についてはまだまだ検討していく必要がある。 4 どういう効果があったか等を目に見える形にしていく必要がある。目指す姿や数値目標を設定し、指標などを使って評価を行うことを考えていくことが必要。 5 歴史的風致を構成する建造物や活動およびこれらを一体となって形成される良好な市街地を適切に維持向上していくためには、行政のみの力では困難である。また、令和6年に起きた能登半島地震の影響により、影響を受けた建造物の今後の検討についてどうしていくか、まだ多くの課題が残る。 			
<p>② 今後の対応</p> <p>I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成</p> <p>祭礼行事や伝統工芸技術の後継者不足に対する支援を継続的に行う。 また、地域住民や学校などへの取り組みも継続し、伝統的工芸に触れ地域固有の歴史・文化であることを認識し、未来の伝承者や理解者へ育っていくような環境を醸成する。</p> <p>II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用</p> <p>国・県・市の指定文化財については、継続的に保存修理を実施していく。 またパンフレット等の作成などにより、歴史的風致の核となる歴史的建造物についての魅力発信に努めていく。</p> <p>III 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和</p> <p>引き続き、重要伝統的建造物群保存地区の修理・修景の補助を続けていく。 また、道路整備事業については、未完了の3件を引き続き取り組んでいく。 そして、住民の活力を推進していくような取り組みを進めていく。</p>			